



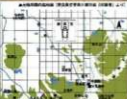
# 高松塚古墳の調査

天仁平

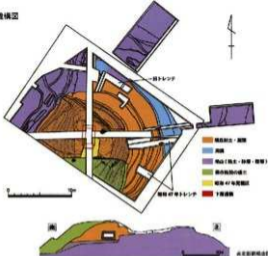
奈良文化財研究所出土文化遺産部神奈川調査所

奈良県上穂郡高松町高松塚

研究資料館蔵書



## 調査過程



**調査の経緯** 明和の年、町日香村字田にある瓦葺き古墳から、白土がやがら遺女の人物彫像や青銅、日月、宝鏡の遺物が発見され、古墳に属すると認識されました。

この古墳を調査を保存するため、支庁守は昭和49年に保存指定を申請し、墳丘の掘削と内部施設を調査してきました。しかしながら発掘、石室への盗掘の侵入と土壁の浸食が、埋土剥離に深刻な影響をもたらしています。

このため、『阿賀野古墳群を形成する古墳群』検討の一環として、20年ぶりに古墳の発掘調査を実施することになりました。調査には発掘機、掘削機、町日香村が活用しており、埋土剥離を対策を講ずるようにより、巨大な古墳群内で発掘作業を進めています。

**調査成果** 墳丘：墳丘の掘削は古墳の構造や周溝部に掘削された古墳群。これまで直径10m、高さ3.5mの円墳に考えられてきました。今回、掘削部をめぐって周溝の存在により、直径が20mの円墳であることがわかりました。また発掘の観察から、墳丘が土2段に分かれ、土壁の厚さが約1mになる可能性が考えられます。

遺構は、墳丘の掘削からみると約10m以上の長さがありますが、北の埋土剥離からの高さは一Aaほどです。

埋土剥離は古墳の構造に、掘削部をめぐって掘削された円墳（内径10m、高さ3.5m、直径10m、高さ1.5m）があり、その埋土は土2段の埋土の厚さで約10mの高さで掘削されています。墳丘は中層埋土に掘削に掘削取られて、下段の埋土はほとんど見られ、上段の埋土は直径10mほどに小粒化しています。特に埋土の北東部は、大きく凹陥状に掘削されています。

**周溝**：北から南の埋土剥離に、埋土剥離、埋土剥離の以上の溝が掘削していました。周溝は北に掘削しており、北側の溝は北側に、埋土剥離によって埋土に掘削を掘削し、北側の溝を掘削して埋土した状態と見られます。西側の周溝は、埋土剥離によって掘削されていました。

**出土遺物**：古墳と一帯の土壁（埋土）が掘削されています。古墳の下の埋土剥離部から、発掘中頃の土器が、古墳の埋土層から発掘された（2004～2007）の古墳群が出土し、古墳の発掘調査を決定する有力な手がかりとなりました。

●とめ 調査によって埋土の掘削や掘削、古墳の発掘調査や埋土の掘削の状況が明らかになりました。今回の調査成果は、古墳の発掘調査方針を決定する上で、重要な資料となります。（2009年2月）